

注目 ポイント !

- 外国からの観光客受け入れが、新たな動きを呼び覚ます。
- 温泉郷に訪れる観光客をまちなかへ、“宮澤賢治のまち”の観光振興。



**ビジット・ジャパン・キャンペーン(VJC)実施を契機に、台湾からの観光客が
倍増！**



雪の大沢温泉

コラム

明治29年、花巻で宮澤賢治が誕生。幻想的な「銀河鉄道の夜」をはじめ、「雨ニモ負ケズ」など多くの作品を残した。その根底にある問いかけに、今日の私たちは、立ち止まり深く考えなくてはならない。この深い魅力が、首都圏をはじめ多くの観光客を引きつけているものの、花巻市全体への広がりは今一步であった。彼のふるさと花巻では、ひとつひとつの問いかけを種子として、まちづくりや地域活動の課題に取り組み、花々を咲かせようとしている。

これまでの経緯

- | | |
|-------------|---|
| 昭和60年(1985) | 東北新幹線「新花巻駅」が開業する。
中心市街地の空洞化が懸念される。 |
| 平成 元年(1989) | 花巻駅周辺土地地区画整理事業を実施する。 |
| 平成15年(2003) | どでびっくり市のイベントを開始する。 |
| 平成16年(2004) | 外客誘致の取り組みにより台湾からの観光客が倍増する。 |
| 平成17年(2005) | 市内若手経営者を中心に「花巻まちなか観光NPO」を設立する。
NPOが中心となって、足湯を設置する。 |
| 平成18年(2006) | 「いわて花巻空港エアポートライナー」の運行を開始する。 |

主な取り組み

外客誘致の取り組み

平成16年10月花巻温泉をメイン会場としてキャンペーンを実施。花巻市の外国人観光客は平成14年7,000人だったが、台湾からのグループ旅行により平成16年15,000人と倍増。VJCに参加した海外旅行業社が造成した東北への旅行商品1,500本。10,000人が各地を訪問。また大沢温泉では、湯治施設もある落ち着いた風情が注目を浴び、民放テレビや雑誌の取材が増加。



海外の旅行会社による視察

新たなトレンドへの対応

旅館やゴルフ場側はいわて花巻空港への臨時便による韓国からのゴルフ客受け入れ体制を整備。交通機関や宿泊施設の集積を活かし、県では広域観光ルートづくりにむけて取り組み、タクシー組合は空港との二次交通改善にむけてアクセス改善を図っている。宿泊施設から始まった取り組みが他業種や空港活用活動等へも波及。



いわて花巻空港エアポートライナー

各温泉街での創意工夫

花巻周辺は、雑穀の生産地。旅館では生産者と連携し、雑穀を活かした料理の開発に取り組み、郷土色を打ち出している。

観光協会によるバリアフリー情報の提供等、旅行形態の変化に対応し、高齢者に配慮。客室へのベッド設置による移動への配慮や顧客だけのくつろぎを重視し、客室への立ち入りを抑えるなど旅館毎に創意工夫。



雑穀を素材とした料理

温泉を使ったまちなかにぎわい

商工会を中心に「どでびっくり市」等のイベントを実施。賢治関連等の観光施設や、区画整理や河川の遊歩道整備により中心街の魅力を向上を図るとともに、まちなかでの交流の場として、NPOを中心に志戸平温泉のお湯を使った足湯を設けるなど市民参加でにぎわいを創出。



どでびっくり市の様子

問い合わせ先

- 花巻市観光課
Tel : 0198 - 24 - 2111 (代表) <http://www.city.hanamaki.iwate.jp>
- 花巻観光協会
Tel : 0198 - 22 - 5557 <http://www.kanko-hanamaki.ne.jp>
- 花巻まちなか観光NPO
Tel : 0198 - 24 - 7111